

書 評

『就業不能リスクとGLTD(団体長期障害)』

―労働力不足時代の福利厚生プラン―

田伏秀輝・森田直子 共著

社会保険労務士という仕事柄、顧問先の従業員が病气などを理由に退職していく姿を見ることがある。特にうつ病やがんなど、長期の療養が必要な病気の場合は、退職後の生活は大丈夫だろうか、と心配になることも多い。

私たちは、「就業不能」という、社会人の誰もが陥る可能性があるリスクに備えていかなければならない。健康保険の傷病手当金や公的年金からの障害年金、介護保険

の障害年金、介護保険からの給付もあるが、全ての人が受けられるわけではなく、期間や金額が限定的だったりする。就業不能リスク

による労災請求が増加傾向にもあり、国も企業に従業員へのストレスチェック実施を義務付けるなど(従業員50人以上の事業場のみ)、対策に力を入れている。



評者 藤井恵介 (社会保険労務士法人ミライガ代表社員)

“働けなくなるリスク”を徹底解説

前半部分は生保の就業不能保険について、後半は損保のGLTD(団体長期障害所得補償保険)について解説されている。

第二章では、就業不能保険の給付条件における課題について述べている。生保の就業不能保険は、ここ数年で各社から

次々と発売されているが、仕組みや給付条件が大きく異なるため一律で理解することは難しく、一般消費者にも分かりにくいものになっている。

第三章では、就業不能保険と関連する公的保険の概要や設計時のポイント、契約プランの分布について解説されている。これからGLTDを前向きに取り扱いたいと思っている人はここを参考にするとよいだろう。

第四章では、就業不能保険の分類と分析をしている。仕組みによる分類、給付条件による分類、精神疾患の保障による分類がされており、商品ごとの比較が可能となっている。また、2018年1月現在の就業不能保険商品の詳細一覧表も付いているので、顧客の要望に合わせて商品提案するのに参考になるだろう。

第五章では、昨今、社会問題化しているビジネスパーソンのストレスによる精神疾患について取り上げている。精神疾患

福祉定期保険や退職金・年金制度としての生命保険、医療保険やがん保険への団体加入などである。従来ある保険を活用した福利厚生制度については、企業経営者はすでに聞き飽きている話かもしれないが、GLTDについては、その存在すら知らない経営者も多いだろう。法人営業の新たな切り口として期待できるであろう。

本書は、保険のプロ向けの書籍だが、内容は分かりやすく、保険商品の知識だけでなく、公的保険などの周辺知識も含めて網羅的に理解するのに十分な一冊となっている。(A5判本文186頁、保険毎日新聞社刊、18年4月発行、本体価格2400円十税)